

東北海区沿岸水温予報(2010年)

海域	経過 (3~5月)	現況(6月上旬~ 6月中旬)	見通し (6~8月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水研発表)	3月から5月まで、やや低めから低めに推移。	6月の太平洋沖合定線観測で津軽暖流の0m層はやや低め、日本海沖合定線観測で、対馬暖流の0m層ははなはだ低め、50m層はやや低め。	やや低めから平年並み。	FRA/JCOPE 6月上旬から8月上旬海況予測モデルによる。	5月以降、太平洋沿岸でキタミズクラゲの大量発生。
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水セ発表)	3月 表面：距岸10海里内は県南部で低い。県中部40海里、県南部40~50海里で低く、平年並み~やや低い。 100m深：距岸10海里内はやや低い。県南部40~50海里で低く、平年並み~やや低い。 4月 表面：距岸10海里内は平年並み~やや低い。県中部30~50海里、県中南部20~50海里、県南部30~50海里で高い。平年並み。 100m深：距岸10海里内は県北部で高い。平年並み~やや高い。県中部40~50海里、県中南部20~50海里、県南部30~50海里にかけて高い。平年並み~やや高い。 5月 表面：距岸10海里内は県中北部でやや低い。県中南部および県南部でやや高い。平年並み。県北部30海里でやや低い。県中北部30海里、県中南部10~50海里、県南部20~30海里および50海里でやや高い。平年並み。 100m深：距岸10海里内は平年並み~やや高い。県北部30~40海里でやや低い。県中北部30海里、県中南部20~50海里、県南部30~50海里で高い。平年並み~やや高い。	6月 表面：距岸10海里内は県南部でやや高い。平年並み~やや低い。県北部50海里で低い。県北部40海里、県中北部20海里、50海里でやや低い。県南部20~50海里で高い。平年並み。 100m深：10海里内は県中北部、県中南部でやや高い。平年並み。県中北部50海里で低い。県北部40~50海里、県中北部40海里でやや低い。県南部50海里で極めて高い。県中南部20海里、40~50海里、県南部30~40海里で高い。平年並み~やや高い。	100m深 7月：距岸10海里以内は県北部、県南部で低い。平年並み~やや低い。県北部20~50海里、県中北部40海里、県中南部50海里で平年並みの。平年並み~やや低い。 8月：距岸10海里以内は県北部でやや高い。平年並み~やや低い。県北部20~30海里、県中北部、中南部でやや高い。県中南部20海里で低い。平年並み~やや低い。と予測。	7月、8月：FRA/JCOPE 海況予測モデル。	3月~6月10日 現在、本県沿岸にキタミズクラゲの分布を確認。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水セ発表)	〈4月〉 『親潮系冷水の影響を受け、本県沿岸域は平年よりも水温が低くなっている。』 【表面水温】 沿岸から沖合海域の表面水温は5~10℃台となり、平年より概ね1~4℃低くなった。 【100m 深水温】 4~5℃台となり、142°E以西の沿岸海域では平年比で1~2℃低くなった。 〈5月〉 『本県沿岸から沖合では水温が低い状態が続いている。』 【表面水温】 沿岸から沖合の表面水温は、前月に比べ、1~6℃昇温して8~13℃台になった。平年との比較では本県沿岸海域(142°30'E以西)は平年並みから2℃低めとなっており、142°15'E付近では7~8℃台となった。沖合海域(142°30'E以東)は11~12℃台となっており、平年並みから1℃高くなった。 【100m 深水温】 2~7℃台で4月同様に低い状態にあった。	『仙台湾の水温が平年よりも低くなっている。』 【表面水温】 沿岸から沖合の表面水温は、11~17℃台となっている。平年との比較では、仙台湾で2~3℃低く、沖合海域(142°30'E以東)のめから低めで推移する。142°38'30'付近で平年よりも2~4℃低くなっている。 【100m 深水温】 7~12℃台となっており、平年との比較では、沖合海域(142°30'E以東)の38°30'付近で平年並みから4℃高くなっている。	7月は142°以西の沿岸域ではやや高めで推移する。142°以東の気仙沼沖合海域(38°50'ライン)では極めて高めに推移し、雄勝沖合海域(38°30'ライン)ではやや低めから低めで推移する。142°50'以東の亘理沖合海域(38°ライン)ではやや高めで推移する。 8月は142°以西の沿岸域は平年並みで推移する。142°以東の気仙沼沖合海域(38°50'ライン)では極めて高めに推移し、雄勝沖合海域(38°30'ライン)ではやや低めから極めて低めで推移する。142°50'以東の亘理沖合海域(38°ライン)では低めで推移する。	「沿岸定線データを用いた宮城県沿岸海域の海況予測モデル」による海況予測を実施した。(2010年6月の類似年は1985年6月、2002年6月であった。)	5月のマダラの水揚量は2,980トンとなり、前年比437%となった。サワラの水揚量は433トンとなり、前年比433%となった。
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	3月：親潮系冷水は本県海域30~50海里に波及し、特に県南部の下層で冷水がみられた。黒潮系暖水の50海里以内への波及はみられなかった。100m深水温は「やや低め」。 4月：親潮系冷水は距岸20~30海里の沿岸寄りに波及を強め、全域で低め基調の水温となった。黒潮系暖水は県南部の距岸40海里付近に波及がみられるものの勢力は弱かった。100m深水温は「低め」。 5月：親潮系冷水は本県海域30~50海里付近に分布し、前月に引き続き全域で低め基調の水温となった。黒潮系暖水の50海里以内への波及はみられなかった。100m深水温は「やや低め」。	6月：親潮系冷水は前月よりやや勢力を弱めたが、県南海域20海里付近に冷水域が分布した。黒潮系暖水は本県海域50海里以東の沖合で勢力を強めたが、沿岸域への影響はほとんどみられなかった。100m深水温は「平年並み(マイナス基調)」。	親潮系冷水の勢力は弱まるが、期間前半は冷水域が残る。黒潮系暖水の波及は弱い。水温は「平年並み」で推移する。	・自己回帰モデルを用いた予測では、親潮系冷水、黒潮系暖水の波及はともに弱く推移すると予測された。 ・類似年解析の結果、1989年と2002年が抽出された。いずれの年も、6~7月は黒潮系暖水が沖合を中心に張り出し、親潮系冷水が本県の沿岸寄りに断続的に南下した。8月は親潮系冷水の影響が残るもの、おおむね黒潮系暖水に覆われる単調な海況だった。 ・気象庁の1カ月予報では、親潮の面積が平年より大きい状態が続き、黒潮は房総沖を接岸し東に流れるとあるため、当県海域は親潮の影響を受けやすいと判断した。	5月、カツオの当県への属地水揚量が、過去10年平均の5%程度と低調だった。6月に入り、漁場が常磐南部海域に形成され、属地水揚量もやや増加している。

常磐南部～鹿島灘 (茨城県沿岸; 茨城水試 発表)	3月: 上旬は北部海域や沿岸域を中心に北方から冷水が波及し、低め基調となった。下旬はさらに冷水の波及が強まり、海域全体が極めて低くなった。 表面水温: 4℃～13℃ 「極めて低い」～「やや高い」 100m深水温: 5℃～10℃ 「極めて低い」～「平年並み」 ※3月は欠測が極めて多かった。 4月: 上旬は前月に波及した親潮系冷水が海域を覆ったため海域全体で極めて低めとなった。下旬は黒潮の流路変動に伴って黒潮系暖水が南部沖合域から沿岸方向へ波及したが、依然として沿岸域には冷水の波及が見られた。 表面水温: 4℃～18℃ 「極めて低い」～「高い」 100m深水温: 3℃～15℃ 「極めて低い」～「やや高い」 5月: 上旬は北部海域を中心にして親潮系冷水が分布して低めとなった。一方で、南部海域には黒潮系暖水が分布して高めとなった。下旬は、黒潮流路変動に伴う黒潮系暖水の波及があったため広い範囲が暖水に覆われた。 表面水温: 9℃～20℃ 「極めて低い」～「高い」 100m深水温: 4℃～16℃ 「極めて低い」～「高い」	上旬は前月に波及した黒潮系暖水が依然として広く分布したため、広い範囲で高めとなった。ただし、北部のごく沿岸域では親潮系冷水の影響が残り、犬吠埼沖合では、前月の黒潮流路の変動後に南偏傾向になったことから低めとなった。 表面水温: 12℃～20℃ 「極めて低い」～「高い」 100m深水温: 5℃～16℃ 「極めて低い」～「極めて高い」	表面水温は気温の上昇により昇温してくる。一方で、下層水温は概ね高め基調で推移するが、新たな黒潮系暖水の波及が弱く推移する見込みであることから、現状に比べると徐々に降温してくる。 平年と比べると142° E以西で概ね平年並み～高め基調で推移する。ただし、ごく沿岸域には冷水の波及が見られる場合もある。	①5月の東北常磐海域の海面水温の平年偏差は低めが目立ったが、6月下旬現在、低めの海域が大幅に縮小した(気象庁資料)。 ②黒潮流路は現在I型で推移しており、直ちに房総半島沖で流路変動を起こすような蛇行の東進現象は見られていない。このため黒潮からの直接的な暖水波及は弱く推移する。ただし、ごく沿岸域で推移すると考えられる。 ③6月中旬現在の親潮の面積は平年よりかなり大きく推移しており(気象庁資料)、道東から三陸北部周辺の海域には依然として親潮系冷水が広く分布している。一方で、三陸から金華山沖には著しい暖水域が存在し、冷水の南下を阻んでいる。今後この暖水域が勢力を持続すれば、急激な親潮系冷水の波及の可能性は低い。ただし、NOAA海面水温画像では、三陸の沿岸域に冷水が南下している様子が見られることから、本県海域の暖水波及が弱まれば、この冷水が本県北部海域を中心として断続的に波及する可能性もある。	特になし
------------------------------------	--	--	--	--	------

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4℃～	+4.0℃～	+6.0℃～	+2.4℃～	+4.0℃～	+4.0℃～
高い(7.5%)	+1.6～+2.3℃	+2.5～+3.9℃	+4.0～+5.9℃	+1.6～+2.3℃	+2.5～+3.9℃	+2.5～+3.9℃
やや高い(20%)	+0.7～+1.5℃	+1.0～+2.4℃	+1.5～+3.9℃	+0.7～+1.5℃	+1.0～+2.4℃	+1.0～+2.4℃
平年並(40%)	+0.6～-0.6℃	+0.9～-0.9℃	+1.4～-1.4℃	+0.6～-0.6℃	+0.9～-0.9℃	+0.9～-0.9℃
やや低い(20%)	-0.7～-1.5℃	-1.0～-2.4℃	-1.5～-3.9℃	-0.7～-1.5℃	-1.0～-2.4℃	-1.0～-2.4℃
低い(7.5%)	-1.6～-2.3℃	-2.5～-3.9℃	-4.0～-5.9℃	-1.6～-2.3℃	-2.5～-3.9℃	-2.5～-3.9℃
極めて低い(2.5%)	-2.4℃～	-4.0℃～	-6.0℃～	-2.4℃～	-4.0℃～	-4.0℃～